

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/

発行者 眞壁 博美

2015.7.15 第312号

つくしだより



平成28年7月号

平成28年度東京つくし会評議員会
盛況裏に終わる！

都連理事 中住孝典

6月23日(木)午前10時から世田谷区烏山区民センターで行われ、56名の参加者が集い盛大に執り行われ、来賓には和泉武彦氏(都議会自民党) 齊藤やすひろ氏(都議会公明党・厚生委員会委員長) 和泉なおみ氏(都議会共産党) 齊藤あつし氏(都議会民進党) 田中朝子氏(民進党都議団) 上田令子氏(かがやけTokyo) 森山瑞江氏(社福・東京都知的障害者育成会副理事長) 松沢勝氏(みんなねっと副理事長)の皆さまがお忙しい中ご出席くださり、激励の言葉をいただきました。皆様本当にありがとうございました。

評議員会では平成27年度活動報告を真壁会長が行いました。みんなねっとと共に「交通運賃に関する100万人署名」活動に街頭署名等も含め積極的に取り組んだこと、また東京都へは福祉手当金支給・医療費助成を精神障害者にも拡大してほしいという要望活動を進めてきたこと、また「2015みんなねっと関東ブロック大会in東京」には各単会の協力、関東ブロック県連の協力、家

族ボランティア、学生ボランティアなどの重層的な協力があり、69名の参加や内容の充実した大会につながったこと、東京都の委託事業で都民向けの講演会の実施や「中学生向けリーフレット」を作成し都内公立中学校、関係機関等に配布し、好評を得ていることなどが報告されました。

平成27年度会計報告は松原会計担当理事が、会計監査報告は苛原真也氏と松尾鉄也氏の両監事から報告があり、活動報告も含めすべてが承認されました。次に28年度活動計画は植松副会長が提案しました。①「東京都精神障害者家族会連合会」から「東京都精神保健福祉家族会連合会」と名称を変更し当会の目的に沿った活動の充実を更に進めていくこと、②障害者の人権が守られ地域で安心して生活できるように制度改革に取り組み、具体的には「心身障害者福祉手当金」「心身障害者医療費助成」を精神障害者に拡大する運動を引き続き行うこと③地域サービスの充実のため多職種チームの数と支援者研修の充実、身近な相談窓口などの体制作り、④各単会からの要望を集約し東京都への要望活動を展開したり、都議会各派に働きかけ請願、

陳情などの具体的運動を行うこと、
⑤家族会活性化への取り組み⑥家族相談員養成事業をブロック単位で行い一層の充実を図ること等が提案され、引き続き松原会計担当理事が28年度予算案を提案し、すべて承認されました。最後に平成28年度役員案が提案され承認されました。

退任された役員(敬称略)
理事 鈴木孝男(世田谷さくら会)

平成28年度役員(敬称略)

会長 眞壁博美(立川麦の会)

副会長 植松和光(シュロの会)

副会長 川崎洋子(つばさ会)

副会長 本田道子(渋谷太陽の会)

副会長 松沢 勝(練馬家族会)

会計 松原のり子(あかね会)

理事 塚本邦之(かたくりの会)

理事(新任) 安藤万寿代(狛江さつき会)

理事(新任) 轡田英夫(練馬家族会)

理事 中住孝典(青梅ほっとスマイル)

監事 松尾鉄也(藍工房家族会)

監事 苛原真也(あかね会)

相談役 榎本稔(榎本クリニック院長)

相談役 野村忠良(府中梅の木会)

相談役 服部百合子(ひだまりの会)

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新理事の紹介

去る6月23日の評議員会で、新しく理事が2名選出されました。つくし会の今後の活動に大いに活躍していただくお二人を紹介いたします。

「初めまして」

理事(新任) 安藤 万寿代

(粕江さつき会)

この度、皆さまから選出されて理事をいたします安藤万寿代です。どうぞ、よろしくご指導をお願いいたします。

息子は、長い引きこもりと病院生活を経て、9年前に心の病の障がい者になりました。当事者を家族として受け入れるには、様々な葛藤がありました。家族会の皆さまに救われて今日に至っています。

幸いにして、現在、息子は回復しつつあり、地域の就労支援や生活支援を受けながら、ひとりアパート生活をしています。

今年4月1日から「障害者差別解消法」が施行され、合理的配慮の法的義務が市区町村に課せられています。障がいのあるなしにかかわらず、皆がお互いを尊重し合いながら、共に生きる社会を願っています。

家族として何ができるか、家族会として何ができるか、また、「東京つくし会」の役割を共に学びたいと思います。ぜひ、皆様のお力を願っています。

「亭主達者で留守が良い」

理事(新任) 轡田英夫

(練馬家族会)

「クツワダ」と読みます。新潟県の旧新津市を中心にいくらかいます。この字はなかなか読みづらい、まして書けと言われたらハタと困ってしまいます。簡単に書ける方法があります。「糸し(愛し)糸し(愛し)と口車」と書けば良いのです。もつとも私は口車に乗せるような人間ではなく、乗せられて来た人間ですが。そのため退職してから何かと用を引き受ける事が多く結構忙しく過ごしています。練馬家族会やつくし会の仕事もその一部という事になります。「今日も居ないの」と女房に嫌味を言われながら「亭主達者で留守が良い、君のためだよ。」とうそぶいて出歩いています。

登山が好きなのですが、このような状況で思うように登れません。運動不足のせいか体重過多で様々な生活習慣病を抱えています。ドクタ―からは「10キロ痩せなさい」と冷たく言われています。出歩くたびに「ちよつと一杯」と誘われて断れないものですからなかなか減量できません。

晴れた日にはのんびりと山を歩き、温泉に浸かって美味しい酒を飲む。雨の日には好きな本を読み、ゆったりと過ごす。そんな日が早く来ることを心待ちにしています。

府中梅の木会総会に参加して

都連副会長 植松和光

京王線の府中駅を降り、大國魂神社の参道を横切り大きなマンション街を抜けると総会の会場である府中ふれあい会館です。

5月11日午後から開かれた総会には、府中市の市議会議長・同副議長さんや府中市障害福祉課長さんが見えになり励ましの挨拶をされました。司会は長年、梅の木会支援をしている市議会議員さんが行い、心強い市ぐるみの応援という感じでした。

私が、報告の中で素晴らしいと思ったのは「憩いの部屋」という当事者の相談事業です。この事業は府中市に助成金を貰い実施しているようですが、年間沢山の当事者の方が相談に訪れ、病気の事、生活の事、家族の事等を相談者の方に話され、皆さんの心の大きな支えになっているとの事です。

いまや、府中市の精神障害者を支える事業に大きな貢献をしているそうです。

梅の木会の皆様これからも、健康に留意されながらご活躍ください。



かもめ会発足35周年記念の集いに出席して

都連副会長 川崎洋子

品川区のかもめ会の記念式典が6月18日に開催され、眞壁会長と共に出席いたしました。

区長はじめ、厚生委員会の委員全員、区側からは福祉部部長、障害福祉課課長、社協事務局長、保健センター所長等々、名だたる方々が出席されており、この35年間のかもめ会の歩みに多くの方々の支援があったことを知らされました。

かもめ会の創設時に係られた吉沢孝子さんは90才になられた今もお元気でこの会に参加されました。今から35年前の精神疾患に対する社会の理解はできておらず、家族さえもどうしたらいいかわからない状態でした。そんなとき吉沢さんにそりよってこれからのことを考えてくださった保健師さんも出席されており、保健所が勉強会を開き、徐々に家族会の活動がすすめられたそうです。

大変に考えさせられたことは、かもめ会は発足当時から議員のところ、役所通いは日参だったことです。いまでこそ、ロビー活動が大切だと言われて実行していますが、かもめ会は35年前からやられていたことです。吉沢さんは記念誌に「陳情に行くときは、みんなで役所に9時に待ち合わせていきました。役所に9時に来るのはあそこの家族会だとわかってもらい、信

用されるようにしました。」と書かれています。このような行動が認められ、家族会が一番求めた出かけていけるところとして作業所「かもめ工房」が昭和61年に設立されました。その後「かもめ第3工房」まで増設されて今に至っています。この間の家族会「かもめ会」のみなさまに積極的な支援を惜しまなかった保健師さんたちの努力に敬意を表します。

式典後の懇親会では、いままで会のためにご尽力をいただいた方おひとりおひとりが、当時のお話をされ、そのご苦労はさぞ大変であったかと考えさせられます。少しずつですが、精神障害者に関する制度も改革され、社会の見方も変わりつつあります。今、改めて先達方のご努力に感謝いたします。



港区みなと保健所家族会を訪ねて

都連副会長 植松和光

去る6月13日の午後、みなと保健所家族会を訪ねました。

みなと保健所家族会はまだ、東京つくし会の会員ではありませんが、入会のお勧めも含めて交流会に参加させていただきました。

都営大江戸線赤羽橋駅から徒歩3分、みなと保健所4階の会議室で開かれた交流会には16

名ものご家族の皆さんが集まってこられました。みなと保健所の保健師の方2名の司会・進行のもと交流会は始まりました。

交流会はみなと保健所の保健師さんの運営より毎月1回開かれているそうです。

ご高齢になった親からは、親亡き後のこととても心配されていました。あるお母さんは病院の対応や病院の選び方についてお話をされました。また、当事者の居場所が中々なくて困っているなどが出されました。

交流会が終ったあと、1階の喫茶店でコーヒーとケーキを食べながらおしゃべりをしました。とても居心地の良い家族会でした。

みなと保健所家族会の皆様ありがとうございました。是非つくし会の仲間になりましょう。

東京つくし会電話相談室



東京つくし会の理事(家族)が交代でさまざまな相談に応じています。

電話 03-3304-1334

毎週水曜日(祝日は休み)

11:00 ~ 16:00

※当相談室は、面談による相談は受けしていません。

また、相談の内容によって、別途お時間をいただくこともあります。

マルコ・ポーロと障害をもった娘

都連理事 塚本邦之

マルコ・ポーロという名を歴史で学んだことをご記憶でしょうか。マルコは13世紀後半にイタリア北部のアドリア海に面した港町ベネチアに生まれました。17才の時父親ニコロに同伴し、シルクロードを通って陸路中国へと旅した商人とも冒険家ともいえます。中国では当時の元首フビライ・ハーンに17年間も仕えました。

帰国後、ドナタと結婚して3人もの美しい娘をもっていました。その一人は精神障害をもっていました。当時ベネチア共和国では、障害者に人格を認めず、財産相続の権利さえ、剥奪していました。

ドナタはマルコの死後、障害を持った娘に財産相続の権利を与えてくれるように裁判者に訴訟を起こしました。そして長期にわたる裁判の結果、ドナタは勝訴しました。福祉政策において先進国と言われる国においても、障害者に対して万全な施策を整えることは、無理でしょう。必要に応じて徐々にも対応策を整えていく体制を持つべきなのでしょう。

ところでマルコが遺した遺産の総額は(榎一雄教授によると)現在の邦貨で約900億円と巨額なものでした。また、マルコが取り扱っていた商品は、香料ではなく、ダイヤモンドとサファイアだったと伝えられています。

☆賛助会員(敬称略)

(株)ヒューライフコーポレーション

高野 喜代子

ありがとうございます。

5000円
2000円

講演会のお知らせ

☆8/14(日) 精神疾患と認知行動療法について

講師：国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター
臨床心理士 加藤 典子氏 定員：100名 先着順(事前申込不要)
主催：シュロの会 ☎080-1211-6898

☆9/10(土) 正しい抗精神病薬の減らし方

～抗精神病薬多剤大量処方からの安全で現実的な減量法～
講師：国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 所長補佐
山之内 芳雄氏 定員：50名 先着順(事前申込不要)
主催：あじさい会 ☎042-388-3729

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。



編集後記

人との出会いで人生は変わる

私は、家族会活動を始めて早二十年になります。また、都連の役員をやらせていただいて四年を過ぎました。この間、私はご家族、当事者、作業所・支援センター・グループホーム等の職員の皆さん、東京都や市の職員の皆さん、それから都議会議員の皆さんと本当に数多くの皆さんと出会ってきました。

家族会を知らないときの私はごく普通の役人で割りりと保守的でした。しかし、沢山の皆さんと出会うようになってから、人の話を良く聴くようになりました。そのことで、心にもゆとりができ、自分のことだけではなく、同じ悩みを持つ人のことや自分たちのことを支えてくださる人が沢山いるんだと言うことをすっかり学びました。

そして、今は、その人たちとの繋がりと人の輪の力を大事にしながら、家族という大きな輪の中でがんばって行きたいと思っています。今年度もよろしくお祈りいたします。

会員の皆様のご多幸をお祈りしています。

都連副会長

植松和光



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。